

## From Ibigawa S A B O

越美山系砂防事務所の周辺でも、桜の蕾が次々に開いているこの頃です。平成27年度も終わりの時期を迎え、各箇所でも施工してきた工事もおかげさまで完成の日を迎える事ができました。4月より新たなスタートとなりますが、引き続きよろしくお願いたします。

### 急峻な斜面で道路の付替 =大蔵谷=

揖斐川町椋原(かしはら)地先で、砂防堰堤建設のため林道の付替を進めてきた大蔵谷第1砂防堰堤道路工事(施工:(株)マルミ建設)は、今年度予定した工事が完了しました。

次年度も引き続き工事を施工し、林道付替工事の早期完成を目指します。



道路の付替が進む大蔵谷

### 現場技術者の声



(株)マルミ建設  
現場代理人  
洞口 幸生さん

本工事は、大蔵谷第1砂防堰堤の完成による林道の付替え工事です。今回の主な作業としては土工作业が多く、天候不順による工程の遅れが懸念されました。また、地元の方々によると、この地域は積雪が多いと聞いていました。雨天、降雪が予測される日には盛土面・盛土材の養生をする必要があり、養生の範囲が広く、大変な現場でした。

幸いにも、今年は例年に比べ積雪が少なく、天候による工程の遅れもなく工事を完成することが出来ました。地元の皆様や工事関係者様、多くの方の協力により、無事故・無災害で工事を完了することが出来た事に感謝します。

### 砂防施設の機能を向上 =坂内流木=

揖斐川町坂内坂本(さかうちさかもと)地先の品又谷第1砂防堰堤に、新たに流木対策施設を設置する坂内川流木対策工事(施工:(株)山辰組)は、今年度予定した工事が完了しました。

引き続き工事を施工し、早期完成を目指します。また、次年度からは、品又谷第2砂防堰堤にも、新たに流木対策施設を設置する工事に着手します。



工事が進む品又第1砂防堰堤

右上につづく

### 現場技術者の声



(株)山辰組  
現場代理人兼  
監理技術者  
井上 勝彦さん

当工事は、すでにある砂防堰堤を補強し、流木を捕捉する機能を高めるための工事です。既設の砂防堰堤に改良を加える工事のため、工法や工程管理に大変気を遣いましたが、天候による遅れもほとんど発生せず、経験豊富な作業員と共に、知恵を出し合い作業を行う事で、無事故・無災害で無事工事完成を迎えることが出来ました。最後に、地元の皆様や関係各所の方々のご理解ご協力に感謝申し上げます。

### 砂防施設等の機能維持 =整備工事=

揖斐川砂防出張所管内整備工事(施工:揖斐昭和建設

(株))では、当出張所管内で老朽化した砂防施設(砂防堰堤、溪流保全工、魚道など)の修繕、危険な施設での安全対策など、今年度の作業が完了しました。引き続き次年度も、管内砂防施設の機能維持のため、老朽化した施設の修繕、緊急時の応急作業などを行います。



転落防止柵の設置(根尾・大井谷)

### 現場技術者の声



揖斐昭和建設(株)  
主任技術者兼  
現場代理人  
樋口 晃彦さん

本工事を無事完了するにあたり、作業をさせていただいた近隣住民の皆様、ご協力ありがとうございました。本工事は、揖斐地区・根尾地区と広範囲にわたり行われる工事です。各作業は規模が小さく、個々の作業期間は限られ、迅速に対応しなければなりません。作業箇所毎に、支障物への対応、移動時の交通事故対策等、工事を進めるにあたり困難なことも多かったですが、現場代理人を含む作業員一同、全力で工事を進めることが出来ました。何より、無事故・無災害で工事を終えることが出来ました。揖斐昭和建設の工事看板を見かけられましたら、声を掛けていただくと幸いです。本当に、ありがとうございました。



クマタカ通信のメール配信希望をされる方は  
右記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。

発行:国土交通省中部地方整備局 越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所

〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3

Tel:0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626

E-mail: [cbr-ibigawasabo@mlit.go.jp](mailto:cbr-ibigawasabo@mlit.go.jp)

## コラム：建設労働人口の将来分析

文：越美山系砂防事務所長 伊藤 誠記

今回は、前回に引き続き、1月末に公表された平成27年の労働力調査結果を使って、建設労働人口の将来分析をしてみたいと思います。

将来分析は、コーホート法という手法を使って行います。これは、図-1に示すように、例えば平成22年に36万人いた25～29歳の建設労働者が、5年後の平成27年には41万人になっていたとすると、平成27年の25～29歳の建設労働者も5年後には同じ増加率で33万人(=41÷36×29)に増えるだろう、という予測です。

この年代ごとの予測を合計すると、図-2のとおり将来の建設業の労働人口が算出されます(赤線)。この図を見て、意外に思った方もいるかもしれません。数年前、このまま若手が入ってこないと近いうちに建設業は深刻な労働力不足になるということで、国土交通省や総合工事業団体、専門工事業団体等がこぞって若手や女性活用に取り組み始めましたが、「現状の500万人に対し、東京オリンピック時の平成32年に482万人、平成42年にも462万人では、それほど深刻な問題ではないのではないか？」という疑問がわいてきます。

実は、このコーホート法という分析は、「過去5年間の変化が今後も続く」ことを前提とした分析のため、この間の社会情勢の変化の影響を強く受けるのです。図-2の青線は、3年前に同じ手法で行った分析です。この時は平成19年と24年を比較しますので、リーマンショック後の建設不況の影響を強く受け、平成32年の建設労働人口は419万人に減少すると予測していました。

わずか3年で61万人も上方修正されたことになりませんが、この結果は、「3年前の予測が間違っていた」ということの意味しません。なぜならば、この5年間、建設投資額は42兆円から48兆円へ、14%も増加しています。これが今後も継続すれば、労働人口は概ね今回の予測のとおりになると考えられますが、おそらくそれは楽観的なシナリオに過ぎるでしょう。

さらに15年後の将来を予測します(図-3)。このまま若手の確保に手をこまねくと、平成元年代に就職した団塊ジュニア世代前後のみが突出して多く、その他の世代が極端に少ないいびつな構造になります。団塊ジュニア世代が退職する2～30年後になると、一気に労働力不足が進むことが予測されます。そうならないよう、若手や女性の確保、また建設業の労働生産性の向上を推し進める必要があるという結論は変わらないようです。

図-1 コーホート法の概念図

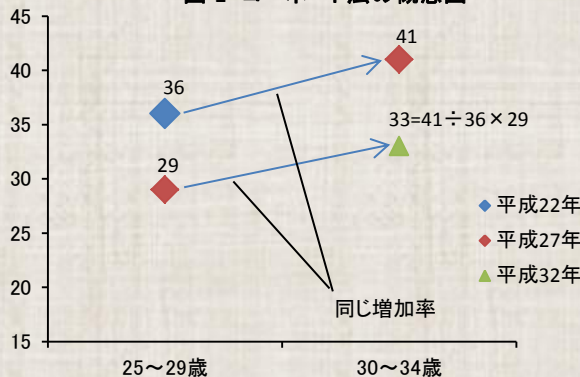


図-2 建設労働人口の将来予測 (万人)

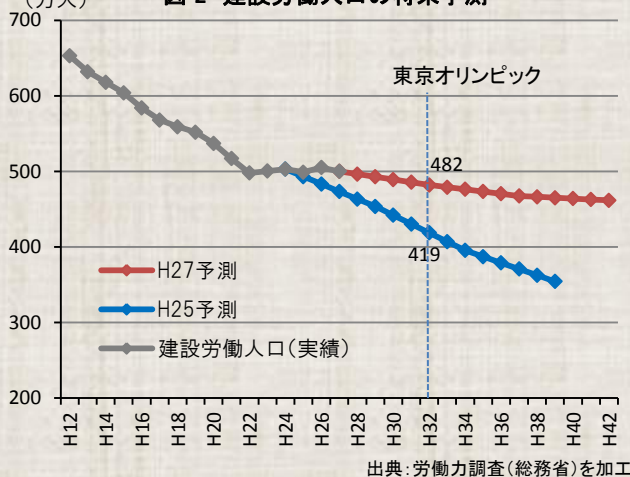
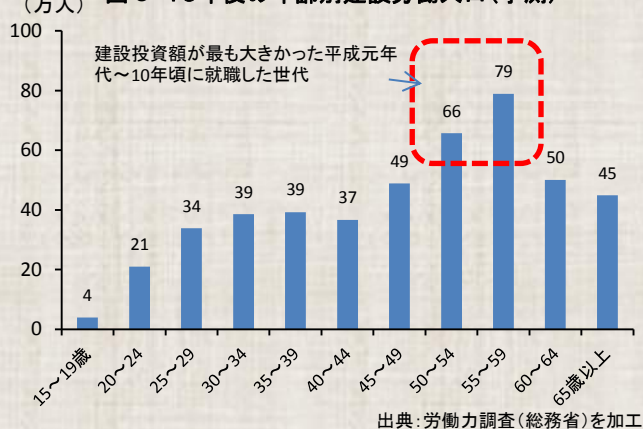


図-3 15年後の年齢別建設労働人口(予測)



### 今回のコラムのまとめです。

- ・最新の統計から予測すると、東京オリンピック時の建設労働人口は482万人で、これまでの予測よりも減少率が緩やかに
- ・今回の予測は、近年の建設投資の増加の影響を受けており、楽観的なシナリオ
- ・このため、若手・女性の確保、労働生産性の向上は、引き続き急務